

公益財団法人日本文学振興会

令和6年度事業報告書

1. 令和6年4月23日（火）午後4時より、東京会館「アゼリア」にて、第31回松本清張賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

井上先斗「イツ・ダ・ボム」

その贈呈式および披露は6月26日（水）午後5時より東京会館「SAKURA」にて開催（大宅壮一ノンフィクション賞と合同）、受賞者に正賞時計、副賞500万円を贈呈した。

2. 令和6年5月15日（水）午後4時より、東京会館「アゼリア」にて第55回大宅壮一ノンフィクション賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

春日太一『鬼の筆 戦後最大の脚本家・橋本忍の栄光と挫折』（文藝春秋刊）

その贈呈式および披露は6月26日（水）午後5時より東京会館「SAKURA」にて開催（松本清張賞と合同）、受賞者に正賞100万円、副賞の日本航空株式会社提供による国際線ビジネスクラス往復航空券を贈呈した。

3. 令和6年7月17日（水）午後4時より、築地「新喜楽」にて第171回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 朝比奈秋 「サンショウウオの四十九日」（「新潮」5月号）

松永K三蔵「バリ山行」（「群像」3月号）

直木賞 一穂ミチ 『ツミデミック』（光文社刊）

その贈呈式および披露は8月23日（金）午後5時より帝国ホテル東京「孔雀の間」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

4. 令和6年10月1日（火）午後17時より、銀座「三笠会館 秦淮春」にて第72回菊池寛賞選考顧問会を開き、下記の5名の授賞を決定した。

上橋 菜穂子

「守（も）り人」シリーズ、『鹿の王』『香君』など、35年にわたりファンタジーの名作を数多く発表。その普遍的な生命観・自然観に貫かれた作品群は、「国際アンデルセン賞作家

賞」受賞をはじめ、世界中で高く評価されている

山崎 貴と白組

人員と予算に制約のある日本の環境において、アナログとデジタルを巧みに融合させたVFXを40年近く追求。本年『ゴジラ-1.0』で日本映画として初めて第96回アカデミー賞®視覚効果部門を受賞、世界を驚嘆させる

後藤 謙次

通信社、テレビで40年以上にわたり、政治ジャーナリストとして平成の政治改革に始まる激動の時代をつぶさに取材。その成果を、本年完結した著作『ドキュメント平成政治史』全五巻に結実させた

大石 静

脚本家として、40年近く第一線で活躍。『ふたりっ子』や『セカンドバージン』、『光る君へ』など、オリジナル作品を中心にラブストーリー、社会派などジャンルを問わず多くの優れたドラマを産み出し続ける

しばてつや

社会現象になった『あしたのジョー』をはじめ、漫画界の第一人者として70年近く読者を熱狂させ続ける。さらに後進の発掘、作者の権利を守る様々な活動など、長年にわたり日本漫画の振興に尽力してきた

その贈呈式および披露は12月6日（金）午後5時より、オークラ東京「曙の間」にて開催、受賞者に正賞時計と副賞100万円を贈呈した。

5. 令和7年1月15日（水）午後4時より、築地「新喜楽」にて第172回芥川龍之介賞および直木三十五賞の選考委員会を開き、授賞者および授賞作品を下記の通り決定した。

芥川賞 安堂ホセ 「D T O P I A」（「文藝」秋季号）

鈴木結生 「ゲーテはすべてを言った」（「小説トリッパー」秋季号）

直木賞 伊与原新 『藍を継ぐ海』（新潮社刊）

その贈呈式および披露は令和7年2月21日（金）午後5時より東京会館「ローズ」にて開催、受賞者に正賞時計、副賞100万円を贈呈した。

以上